藤原師長の琵琶

あいちの民話を訪ねて
悲恋の舞台今はビル群
藤原師長の琵琶（名古屋市瑞穂区）

大阪市立中央図書館でリコール署名不正について、地元の中日新聞をチェックしている時、2 月 7 日の表題記事に注目した。「あいちの民話を訪ねて 24」に、名古屋市瑞穂区と愛知県清須市「枇杷島」を結ぶ悲恋の物語が紹介されていた。

平安時代後期の太政大臣、藤原師長は貴族としての教養を重ねた人で、琵琶の名手だった。だが、1179(治承 3)年、後白河法皇と衝突した平清盛による政変で、師長は尾張国井戸田村（現名古屋市瑞穂区）に流された。

師長は都をしのんで、夜な夜な月を眺めながら琵琶を奏でる日々を過ごした。やがて、村おさの娘と恋に落ちたが、しばらく後、師長は赦され、都に帰ることになった。

別れを惜しんだ娘は、師長を土器野里（現清須市）まで見送りに来た。師長は別れ際に、愛用していた「白菊の琵琶」を形見として娘に贈ったが、娘はこの世をはかなみ、淵に身を投げてしまった。娘の亡きがらは村人たちが捜しだし、琵琶と一緒に埋めて塚を造った。こうして、塚の周辺は「枇杷島」と呼ばれるようになったという。

記事を読んでいて、2017 年 4 月 12 日に書いたレポートを思い出した。その前半だけ紹介しよう。

藤原師長公謫居（たつきょ）跡

話は 4 月 4 日にレポートした「庄内川の花見」から始まる。井戸田村と枇杷島を結ぶ、悲しい恋の伝説へと。

地下鉄「妙音通」2 番出口すぐに「藤原師長公謫居跡」がある。いつも北側の 1 番出口から、ウェルネスはやし鍼灸院に向かっていた。ここは井戸田村、師長公ゆかりの地であった。「妙音通」という地名も、師長公の戒名「妙音院」に由来するという。妙な縁で悲しい恋の伝説に興味をもった。謫居跡の案内には次のように記されていた。

太政大臣藤原師長公は、平清盛の嫌疑を被り、治承 3 年(1179)11 月、井戸田村に流されて来た。出家し仏門に入り、理覚と法名を授かり、花の朝・月の夕べ、東北 2 キロの丘に登り（今の師長町の丘陵）琵琶を弾じて京を偲んだ。

死後、戒名に妙音院の院号を授かり、これが今の妙音通の地名のおこりである。身辺の世話をした村長横江の娘と契り、師長公が帰洛を許されるとき、別れを惜しんで土器野里（枇杷島）まで送ってきた娘に形見として片貝の琵琶「白菊」を与えた。娘は悲しみのあまり、その形見を抱いて水に身を投じたという。

〈四つの緒の しらべもたえて 三瀬川 沈みはてぬと 君に伝えよ〉の歌が残されている。

井戸田学区連絡協議会

（2021 年 2 月 16 日）